

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題

研究テーマ名

パンデミックの歴史研究に基づいたポストパンデミックの社会・環境理論の構築

責任機関

国立大学法人京都大学

研究実施期間

令和2年10月～令和5年3月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	藤原 辰史	京都大学・人文科学研究所・准教授
グループリーダー	瀬戸口 明久	京都大学・人文科学研究所・准教授
グループリーダー	石井 美保	京都大学・人文科学研究所・准教授
分担者	直野 章子	京都大学・人文科学研究所・准教授
分担者	池田 さなえ	京都大学・人文科学研究所・助教
分担者	小関 隆	京都大学・人文科学研究所・教授
分担者	岡田 暁生	京都大学・人文科学研究所・教授
分担者	桑田 昌宏	京都大学・生命科学研究所・助教
分担者	香西 豊子	佛教大学・社会学部・准教授
分担者	東 昇	京都府立大学・文学部・准教授
分担者	小堀 聡	名古屋大学・経済学研究科・准教授

配分（予定）額

（単位：円）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,879,500円	5,824,000円	5,824,000円

※令和3年度・令和4年度については予定額

研究目的の概要

COVID-19 は、世界中の国々の政治や経済のみならず、人々の社会観や自然観に根源的な動揺を与えた。人間社会の差別や経済状況に即して被害が甚大となる構造に加え、乱開発がもたらすウイルスと人間の頻繁な接触に警鐘が鳴らされている。だが、どの論考も**社会現象と自然現象の統合**までは到達していない。また、感染症の歴史は蓄積が膨大であるにもかかわらず、歴史学者も新しい社会観や自然観や未来構想を発信できていない。本プロジェクトでは、百年前の**スペイン風邪**の一次史料に加え、特に**感染症の歴史**の文献を今回並びに次回の危機の際利用しやすいように整理、蓄積すると同時に「**オンライン人文パンデミック講義**」を発信し続けることで動揺する社会観や自然観の再構築にむけた骨太の人文学知を形成することを目的としている。

研究計画の概要

本プロジェクトは、基本的に、スペイン風邪史料班、感染症史研究班、危機理論収集班の三班それぞれが研究を進めつつ、定期的に全体ミーティングを開き、情報交換をしていく。とともに、初年度より「オンライン人文パンデミック講義」を行ない、市井の人々との情報交換も同時に進めていく。成果発表としては、2021年度に開催予定の東アジア環境史学会で、特別セッションを企画し、パンデミックの環境史について報告し、最終年度に感染症史料集の作成を終えたい。